

藤女子大学 図書館 だより



Fuji Women's
University
Library

No.105
2026.4

1. 北海道とキリスト教
… 地域創生学科/人間生活学科 Sr.木村 晶子
4. 学園創立100周年記念
5. 大学生の図書館実習と
中学生の職場体験
6. 第8回 学生選書ツアー開催
7. LiSt活動報告 第11回
7. 図書館からのお知らせ
8. 図書館資料Navi 第19回
「本を読む」ための本
… 日本語・日本文学科 伊藤 智弘

CONTENTS



北海道とキリスト教

地域創生学科/人間生活学科 Sr.木村 晶子

北海道にキリスト教が到来したのはいつ頃でしょうか。またキリスト教が北海道に与えた影響とどのようなものだったのでしょうか。今回、この点に焦点をあてて述べていきます。

日本に最初にやってきたイエズス会の記録によると、北海道に宣教師がはじめて渡ってきたのは、禁教令下の1618年（元和4年）です。アンジェリス師（イエズス会）という宣教師が当時の蝦夷地・松前を訪れ、10日間ほど滞在したということです。禁教の取り締まりが厳しくなるなかで、藩主もあまり意に介さず「松前は日本に属さないから」と温かく迎えたそうです。その後、1620年（元和6年）にカルワリユ師（イエズス会）が松前を訪れ、一週間ほど滞在したとのこと。翌年にアンジェリス師が、その翌年の1622年（元和8年）に

はカルワリユ師がそれぞれ二度目の来訪をしています。しかしその後は幕府の松前藩に対する圧力が強くなり、藩としてもキリシタンを野放しにはできなくなり、逮捕・処刑が行われるようになりました。最も大きな事件は、1639年（寛永16年）の蝦夷キリシタンの殉教です。記録では、106名（大沢金山50名・千軒岳50名・石崎6名）が斬首の刑に処せられたそうです。

その後日本ではキリシタン迫害が続き、苦難の時代を迎えることになりましたが、1854年（嘉永7年）の日米和親条約締結による下田と箱館の開港および1873年（明治6年）のキリスト教禁止令の廃止によって、やっとキリスト教にとって明るい時が開けてきました。

箱館にはアメリカ・イギリス・フランス・ロシアの

領事館が開設されました。1861年（文久元年）にはロシア・ハリストス正教会のニコライが領事館付司祭として箱館に赴任し、1871年（明治4年）、11名の受洗があったと記されています。



函館ハリストス正教会

その後、フランスからパリ外国宣教会のメルメ・カシオン師が来函し、1877年（明治10年）、函館元町カトリック教会を建てました。1878年（明治11年）には、同じくフランスからシャルトルの聖パウロ修道女会の3人の修道女、Sr.マリ・オーギュスト、Sr.マリ・オネジム、Sr.カロリヌが函館に着任し、女子教育と社会福祉の基礎を築きました。3人は身寄りのない子供たちの養育、病人の見舞いそして近隣の子供たちに手仕事を教えることから始め、1886年（明治19年）、函館市元町八幡坂に「聖保禄（せいほろ）女学校」（現函館白百合学園高等学校）を開設しました。

一方、プロテスタントの活動も活発になってゆきます。1874年（明治7年）、メソジスト教会のアメリカ人宣教師M・C・ハリス夫妻が函館に着任し、1882年（明治15年）北海道で初めての女子校として文部省による許可を受けて「函館遺愛学院」を開きました。

また、1887年（明治20年）、北海道尋常師範学校の外国人教師に採用されたアメリカの女性宣教師サラ・C・スミスは、「北海道の女子教育のために、キリスト教に根ざした学校づくりをしてほしい」という大島正健ら札幌農学校の1・2期生の奨めもあり、札幌に女学校を開校することを決意し、1889年（明治22年）、「スミス女学校」を開き、1894年（明治27年）に、新渡戸稲造らの助言もあり、「北星女学校」と改名されました。

さらに特筆すべきことは札幌農学校の開校です。

1876年（明治9年）、開拓使札幌本庁は北海道の開拓のためアメリカよりウィリアム・S・クラークを札幌農学校教頭として招聘しました。1877年（明治10年）3月、札幌農学校一期生16名が「イエスを信ずる者の誓約」に署名し、メソジスト派のM・C・ハリスより15名が受洗しています。同年10月には札幌農学校二期生15名内村鑑三、新渡戸稲造らが誓約に署名しています。官学でありながらキリスト教の思想を中心に学ぶというのは、他県ではありえなかったことでしょう。これも北海道というフロンティアの地であったがゆえのことと言えるでしょう。さらに彼らは後に「札幌バンド」というグループで伝道に携わり、札幌独立基督教会を設立しています。

そのほかに重要な活動といえば、アイヌの人々への宣教でしょう。これも北海道に特有のことです。1879年（明治12年）、聖公会（イギリス国教会）のバチェラー夫妻がアイヌ民族伝道者として任命され、函館を拠点にアイヌへの伝道活動を始めました。同年、デニングのすすめで日高地方の平取を訪れ、長老ペンリウクの家で4ヶ月滞在してアイヌ語を学びました。そして、1885年（明治18年）、幌別で金成太郎と出会い、彼はアイヌ民族初の受洗者となります。従妹のマツ、知里幸恵兄弟など親戚の多くがクリスチャンになりました。バチェラーは差別に苦しむアイヌの人々の窮状をみて心を痛め、生涯アイヌの人々に寄り添う決心をします。「アイヌ学校」や「アイヌ教化団」を設立したり（1885年（明治18年））、向井八重子を養女に迎え、アイヌ女性への教育にも力を入れました。

そのほか多くの開拓団も入植しましたが、これらの団体はクリスチャンで構成されていました。たとえば1881年（明治14年）、赤心社（摂津公会信徒）が日高に入植、1896年（明治29年）、坂本直寛（坂本竜馬の甥、牧師）ら北光社が北見に入植、1892年（明治25年）、インマヌエル開拓団が今金に入植しています。

その後のカトリックの宣教活動としては、1896年（明治29年）、渡島当別に男子トラピスト修道院が、1897年（明治30年）に函館湯川に女子トラピスト修道院が設立されたことが重要でしょう。トラピスト修道院の活動は近隣の子どもたちへの教育をはじめ、酪農製品やクッキーなどの作り方を教えて当時の食生活を豊かにしています。フランスの影

響は現在でも函館方面では強く、市民の生活にも浸透しています。



1920年来札した3人のシスター

さらに、1907年（明治40年）、ドイツからフランシスコ会修道士が札幌に派遣され、1908年（明治41年）には「マリアの宣教者フランシスコ修道会」の7名の修道女がフランスから札幌に派遣されて天使病院が始まりました。その後「殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会」の3名の修道女、Sr.カンディダ・ハール、Sr.ヨハンナ・サロモン、Sr.クサベラ・レーメがキノルド司教の招きにより札幌にやってきました。第一次派遣は1914年（大正3年）でしたが、第一次世界大戦勃発のため途中で帰還しました。そして1925年（大正14年）、札幌藤高等女学校を開設することとなりました。



1925年に開校した札幌藤高等女学校

その後も1932年（昭和7年）にラ・サール修道会（カナダ）の修道士3名が来函し男子高等学校を設立、1933年（昭和8年）には、キノルド司教による札幌光星商業学校設立とカトリックの学校の開設が続きました。

戦後は、札幌聖心女子学院や室蘭カトリック女子高校が開設され、1961年（昭和36年）には藤女子大学が誕生するなど次々とミッションスクール

が発展していきました。

最後に黒澤酉蔵の活躍を取り上げましょう。彼は、足尾鉍山鉍毒の被害に苦しむ人々の救済に一生を捧げた田中正造氏に師事し、クリスチャンとなって北海道に渡り、冷害に苦しみ疲弊する農家を救うために「酪農」を薦めました。北海道には酪農がもっとも適していると確信し、酪農の発展には農家に教育を授けることが重要であるとの信念に基づいて1933年（昭和8年）北海道酪農義塾を開校し、現在の酪農学園の基礎を築きました。さらに、雪印乳業を設立し、乳製品の普及につとめました。

こうしてみると、北海道の開拓と発展にはキリスト教が大きく関わってきたことがわかります。特に、女子教育と食の分野における貢献は非常に大きなものであったといえます。

明治という新しい時代にあって、キリスト教は北海道の開拓という名目のもと、独自の活動がしやすかったともいえるでしょう。今日の北海道はクリスチャンたちの働きなくしてはありえなかったのです。

本学所蔵「北海道とキリスト教」に関連する書籍



『北海道とカトリック』（戦前編、戦後編）仁多見巖編著
請求記号：190.21/N88（本館所蔵）
（戦後編）「藤学園」「天使学園」についての記載があります。

『札幌キリスト教史：宣教の共なる歩み』鈴江英一著
請求記号：190.21/Su93（本館所蔵）
札幌の宣教について詳しく書かれている本です。

『北海道とキリシタン（カトリック）：参考資料年表』続橋和弘編集
請求記号：190.21/Su93（本館所蔵）

『北海道キリスト教史』福島恒雄著
請求記号：190.21/F84（本館所蔵）
北海道のプロテスタント、アイヌへの伝道について詳しく書かれている本です。

学園創立100周年記念

本学の母体である、学校法人藤天使学園は2025年に創立100周年を迎え、2025年9月27日には本学園講堂で記念式典を執り行いました。

100周年を記念し、藤学園の卒業生や関係者の皆さまから寄せられたエピソードを冊子にまとめた「藤 100年の物語」が発刊されました。本冊子は、大学同窓会「藤の実会」が中心となって制作されました。

そこで、「藤の実会」の鵜飼会長から冊子について紹介をしていただきました。

(※100周年を記念し「藤 100年の物語」と「藤天使学園創立100周年記念誌：藤の歩みと修道会」の2冊が刊行されました。)

「100エピ」から「藤 100年の物語」へ

藤の実会会長 鵜飼 あから 紅良

2024年夏、永田理事長から“未来志向で藤学園卒の幼・中高・短大大学、関係者による創立百年記念誌エピソード集の制作を、”とスマホで受電、うろたえつつも藤の実会役員の深見さん、金崎さん、藤天使学園評議委員の笹川さん、甲谷さんの5人で（通称）『100エピ』の編集委員会を上げた。着地は'25年9月の創立記念式典での配布。大学に日参し、編集会議。投稿用のゲートルフォームも準備。人海戦術の始まり。冊子の骨子と華は作家藤堂志津子氏、歌手中島みゆき氏にロックオン。執筆依頼は必着必読の嘆願書を企み、「100年に1回のお願い」のご寄稿依頼を直球入魂の簡易書留で郵送。'25年1月7日、スマホに中島みゆきさんのマネージャーのK氏から着信。“中島と相談し執筆ご依頼をお受けしようと思います。”この瞬間に記念誌に大輪の華が咲いた。切実なお願いをした藤堂先生からもスマホに着信が。“藤堂ですけど。800字では書ききれないから増やせる？”“無制限です”と即答。『100エピ』に骨子が備わった。そして生まれた『二年間のしあわせ』直木賞作家の文章とはこういうものかと心底感服。藤中高出身の藤愛に溢れた大黒摩季さんの『言葉というエンブレム』は歌手大黒摩季=愛の表現者として「秀逸」としか言いようがない。届けられた130超の投稿は“藤 100年の物語”に結実し、1924年の藤蔓は藤房の珠玉の言葉となって甦生。藤房は明日も匂い咲き、深謝。



「学園創立100周年記念」特別展示

学園創立100周年に合わせて両キャンパスの図書館では、学園の歴史に関する資料と卒業生の著作の展示を行いました。1925年4月に札幌藤高等女学校が開校し、幼稚園、藤女子高等学校・藤女子中学校、藤女子短期大学、藤女子大学へと歴史が続いています。すでに展示は終わっていますが、資料は貸出可能ですのでぜひご利用ください。

本館



花川館



大学生の図書館実習と中学生の職場体験

2025年度も図書館実習、職場体験を実施しました。

また図書館情報学課程の希望者に協力してもらい、地下集密書庫の資料移動、データ整備を行いました。実習後に書いてもらった感想を一部抜粋でご紹介します。（*実習当時の学年を記載しています）

大学生の図書館実習 本館 8月25日-26日 本学学生 2名

ボランティア（資料移動） 本館 8月18日-27日 本学学生 3名

（データ整備） 本館 9月1日-4日 本学学生 3名

図書館実習では、資料の受入や装備、カウンター業務など図書館業務について実習を行いました。普段利用している時に見えているカウンター業務だけではなく、受入、書誌データの入力など様々な業務について学んでもらいました。

ボランティアでは、地下集密書庫の資料移動とデータ整備を行ってもらいました。図書館では資料が増えて書架に入らなくなると、少しずつ動かして配架出来るようにしています。ご協力いただき大変ありがとうございました。

実習、ボランティアに参加してくれた学生1名の感想をご紹介します。

文化総合学科2年 Kさん

図書館のボランティアと実習に参加させていただいたきっかけは、単なる好奇心であったと思います。学校やアルバイトにばかり行って飽き飽きしていたので気分転換にでもなればいいなと思い、参加させていただきました。ボランティアはひたすら本を書架から書架へ移す作業や、書誌データを打ち込む作業であったので、単純作業が好きな私にとっては苦痛など感じ得ない体験でした。実習は私の知らない世界を見せていただく貴重な体験であったと思います。静寂に包まれた図書館で行われた実習は私にとっては刺激的でした。何事も、私は裏側を見ることが好きなので実習中に行った全てが私にとっては魅力的で、今までとはまた違った視点で図書館を楽しむことができるきっかけになったと思います。図書館員として生きていく心づもりは今のところありませんが、いずれこの体験が私の人生において役に立つと信じ、糧として心の中で大切にしていきたいです。

中学生の職場体験 花川館 10月21日 石狩市立樽川中学校 3名

花川館で中学校1校の職場体験を行いました。職員からの説明後、学生スタッフLiStの案内で学内を見学し、貸出・返却、配架などを実際に体験してもらいました。

生徒さんの感想を一部ご紹介します。

Kさん

職場体験では、司書の方がどんな仕事をしているのか詳しく知ることができ、私たちもその仕事を体験できてすごく楽しかったです。カウンターや配架などの細かい作業があり、大変だと思うこともありましたが優しく教えていただきありがとうございました。

また、大学生の方に大学の中を案内してもらい、大学のこともよく知ることができました。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました。



Tさん

今回の体験で「一つ一つの作業を丁寧にやることの大切さ」を学びました。貸出・返却は行ったことがありましたが、配架や書架整齊は初めてでした。正しい場所にもどしたり、正しい順番で並んでいるかを確認するのは大変でした。私は図書委員なので体験したことを委員会の仕事に生かしていきたいです。



Nさん

職場体験で、普段出来ないカウンターや本の返却作業などを体験することができました。配架や書架整齊の仕事では、しっかり確認しながらだったので大変だったのですが、とてもやりがいを感じる事ができました。カウンター作業は楽しかったです。私たちが図書館を快適に利用できるのは、司書の皆さまのおかげなのだ改めて知ることができました。



第8回 学生選書ツアー開催

店頭選書とオンライン選書の両方を行い、両学部合わせて14名が参加してくれました。

店頭選書では、様々な分野の本を実際に手に取り、自分で読みたい本や他の学生さんに読んでもらいたい本を熱心に選んでいました。

選書ツアーで購入した資料は、選んだ学生さんがPOPを作成し、両館で展示を行いました。

年に1度選書ツアーを実施しています。興味のある学生さんはぜひ参加してください。

また、図書館には購入希望制度があります。読みたい本が図書館に所蔵がない時は、OPACまたは図書館内の購入希望コーナーからリクエストをしてください。

文化総合学科4年 Iさん

今回初めて選書ツアーに参加したのですが、なぜもっと早くから参加しなかったのかと悔やむほど楽しかったです。当日はあらすじを読んで興味を惹かれた本を購入したり、事前にある程度どの本を買いたいかわせていたので、それらを探しました。事前に色々調べた時間も楽しかったですし、当日初めて見る本を選ぶのも楽しかったです。他の参加者の方が選んだ本を見ると、人によって選んでいる本の系統が違って、その人の趣向が表れていたのが興味深かったです。私は『殺し屋の営業術』や『殺戮にいたる病』などミステリーの本を中心に選びました。第71回江戸川乱歩賞の受賞作の『殺し屋の営業術』は、初めて読む設定のお話で次の展開が予想できずとても面白かったです。

子ども教育学科4年 Yさん

以前から気になっていた選書ツアーに、今年ようやく参加することができました。

当日は、ずっと読みたいと思いながらもなかなか手に取れていなかった本や、他の学生にも読んでもらいたいと思う本を選びました。自分が選んだ本が実際に図書館の蔵書として並び、誰かの学びや興味につながるかもしれない考えると、わくわくする気持ちと同時に少し背筋が伸びるような感覚がありました。また、友人と一緒に選んだ本を見せ合いながら「それ面白そうだね」と話す時間も楽しく、選書ツアーそのものが心に残る良い思い出となりました。



LiSt 活動報告 第11回

LiSt (リスト) とは?
Library Studentの略で、
図書館で働く
学生スタッフの愛称です。

「身近で親しみやすい図書館」になるための第一歩

2025年度は、図書館にもっと親んでもらうかつ楽しんでもらいたいという思いのもと、今まで実施したことがない企画にも挑戦した1年でした。

藤陽祭では例年人気のブックギフトや新たな試みとしてオリジナルブックカバー制作体験、2024年に実施したフローチャートの企画をさらにアップデートした「物語の主人公になろう! リアル人生ゲーム」、そして「本で国際交流!? ブックワールドツアー展示」などを行いました。学生はもちろん、学生以外の多くの方に来館していただき図書館を盛り上げることができました。

その他にも、常設展示の「ブックマンション」の更新や新入生オリエンテーションでの図書館紹介、オープンキャンパスでの企画参加、クリスマスにまつわる本の展示、LiSt Bookawardなど新しい企画を行いました。どの企画もLiSt一同の個性が発揮されつつ利用者にも親んでもらえるような企画に取り組んでまいりました。

今後も、様々な人にとって図書館という存在がより身近に感じられて楽しんでいただけるよう活動に取り組みたいです。

(北16条LiSt 佐藤)



図書館を楽しんでもらうための新たな試み

2025年度はメンバー全員で意見を出し合い、今まで行っていたイベントだけではなく、新たな企画にも挑戦することが出来た一年となりました。具体的な取り組みとしては、藤花祭のイベント企画、図書館ポイントカードの発行などを行いました。

藤花祭では、「芸術の秋ワークショップ」というイベントを行いました。きしんさんに色を塗ったり、スタンプを押したり、シールを貼ったりするオリジナルのしおり作り、おりがみでパンキンポシェットやお化け、コウモリなどを作るハロウィン工作体験を行い、大人から子どもまで幅広い年代の方に参加していただくことが出来ました。

2025年10月から、「図書館ポイントカード」の発行を始めました。「図書館ポイントカード」は、図書館に親しみをもってもらい、より多くの方に図書館に来て本を借りてもらうことを目指しています。カードはポイントを貯めることできしんさんが四季を旅する人生ゲームようになっており、楽しめるようデザインを工夫しました。

今後も沢山の方に図書館に行ってみてみたいと思ってもらえるような企画を考え、メンバー全員で協力して行っていきたいと考えています。

(花川館LiSt 桂田)



図書館からのお知らせ

2027年4月に北16条キャンパスと花川キャンパスが統合され、北16条キャンパスへ集約することとなりました。

1992年の花川キャンパス開設時に開館した花川館は2026年度が最後の1年となります。花川館は2000年に3階をリニューアルし、スペース拡大、書架増設を行い、2017年にはアクティブ・ラーニング・エリアを設置するなど利用者みなさんに快適に利用してもらえよう整備を行ってきました。

2026年度は移転作業に伴いご不便をおかけする可能性があります。ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。



1992年 花川館



「本を読む」ための本

日本語・日本文学科 伊藤 智弘

いわゆる古典などの「古い」文献の中には、「複製本」によって、その実際のありようを知ることができるものがあります。

複製本というのは、いわば「コピー」本のことで、古い文献には貴重なものも多く、気軽に実物を見られるものばかりではありません。そこで、原本の中身（場合によっては装丁まで）を再現した本が作製・刊行され、研究者はそれを座右に研究を行います。現代の主流は写真画像を掲載する「影印本」ですが、最近ではインターネット公開のデジタル画像も、この役割を担うものになってきています。

以下、観智院本『類聚名義抄』（天理図書館蔵の国宝）という、13世紀の日本で作られた辞書の複製本をいくつか見てみます。

戦後の研究では、①の複製本がよく使われたといます。戦前に刊行された影印本をもとに「写真の中から、人の書いた文字や記号だけを選んで印刷した」ものと考えてください。

では影印本では、同じ本がどう見えるのでしょうか。②は戦後（1976

年）のものですが、これを見ると、書かれた文字だけではなく、余白の部分の状態も見る事ができずし、文字のかすれや虫食いの跡まで判別できません。

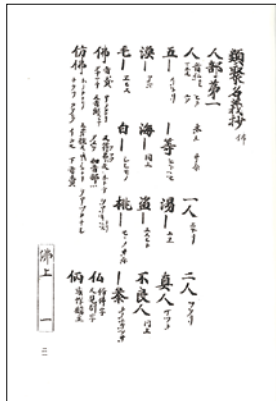
③は、一番新しい影印本（2018年）です。鮮やかなカラー写真を掲載しており、たとえば、筆が黒・朱色の二種あることが容易にわかります（実は②もよく見れば、ある程度は判別できます）。

現在、多くの影印本は②のような白黒が大半で、カラーのものはまだごく一部です。資料の所蔵機関に白黒の影印を持ち込んで、朱の筆で書かれた部分をひたすら書き写す、なんて経験のある研究者も多いのではないのでしょうか（私みたいな若い世代でもあるくらいですから…）。

こうして見ると、生成AIなどのデジタル技術が浸透してきた近年ほどではないにしろ、人文科学の研究環境って、「(意外にも?) けっこう変わってきている」ように思えます。



③『類聚名義抄：観智院本』（新天理図書館善本叢書 第9巻）23p



①『類聚名義抄』（第1巻）21p



②『類聚名義抄：観智院本』（天理図書館善本叢書と書之部 第32巻）23p

【図版について】

- ①『類聚名義抄』（第1巻）（風間書房、1962年）
請求記号：813.2/R84/1（本館所蔵）
- ②『類聚名義抄：観智院本』（天理図書館善本叢書と書之部 第32巻）（八木書店、1976年）
請求記号：080/Te37/32（本館所蔵）
- ③『類聚名義抄：観智院本』（新天理図書館善本叢書 第9巻）（八木書店、2018年）
請求記号：081/Sh69/9（本館所蔵）

● 編集後記 ●

巻頭言は「北海道とキリスト教」と題して、北海道とキリスト教の歴史や本学開設について、木村晶子先生にご寄稿いただきました。図書館資料Naviは伊藤智弘先生に『類聚名義抄』を例に古典の複製本についてご寄稿いただき、100周年記念については藤の実会の鶴飼会長に『藤 100年の物語』についてご紹介いただきました。ご寄稿いただきました皆さまありがとうございます。

花川館の利用は2026年度が最後となり、2027年度から図書館は本館に集約します。1992年に開設された花川キャンパス。花川キャンパスは自然がたくさんあり、桜の花や木の実、タイミングが良ければリスなどの動物に会うこともあります。四季を通して色々な自然と触れ合うことが出来るので、ぜひキャンパス内を散策してみてください。そして、両キャンパスや図書館で様々な出会いを見つけてください。(W)



図書館キャラクター
「きしんさん」

スマートフォンでは
アプリを利用できます



藤女子大学 図書館だより 第105号 2026.3

発行者 藤女子大学図書館 札幌市北区北16条西2丁目

TEL 011-736-5407 FAX 011-709-4770

<https://www.fujijoshi.ac.jp/library/>